

第5期第7回横浜市子ども・子育て会議放課後部会 会議録	
日 時	令和4年9月22日(木) 18時30分～19時30分
開催場所	横浜市庁舎 18階 みなと6・7
出席者	明石要一部会長、青山鉄兵副部会長、池田浩久委員、辺見伸一委員、宮崎良子委員、角井治朗委員、宮永千恵子委員
欠席者	青柳寛子委員、松本豊委員
開催形態	公開(傍聴者2人)
議 題	<p>&lt;議事&gt;  横浜市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて</p> <p>&lt;報告事項&gt;  横浜市放課後児童健全育成事業の質の向上に向けた見直しの状況</p>
<p><b>&lt;議事&gt; 横浜市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて</b>  (事務局) 資料5-1及び資料5-2に基づき説明</p> <p>(角井委員) 3年度の実績として当初計画と実績とで乖離が生じているとのことで、今後、「量の見込み」としてはかなりの増加になるとお聞きしました。学校長としての感覚では、放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの利用者が増加していく可能性も感じますが、一方で、放課後等デイサービスの活用というのかなり増えていると感じています。また、意見になりますが、キッズクラブの活動場所について、学校としてはできる限りの協力をしているところですが、中には、スペースが足りず、協力が厳しい学校も出てくるのが予想されます。全ての子どもたちに豊かな放課後をとという考え方は十分理解できますが、一方で過ごす環境の充実を図る配慮などを学校としてはぜひ考えていただきたいと思います。</p> <p>(事務局) 学校の協力なくして、キッズクラブ事業は成り立たないところで、本当に放課後の場を提供していただいて感謝しているところでございます。ご質問いただきました量の見込みについて、令和3年度の実績は3万4010人ですが、令和6年度の見込みは3万4998人で微増でございます。児童数が実態として減っていることや、放課後等デイサービスなどの利用が増えている状況の中でも、放課後キッズクラブ事業と放課後児童クラブ事業を合わせた利用に関しては令和5年度・6年度は、3万4000人台で推移すると想定して計画を策定させていただいたところです。</p> <p>(池田委員) 令和3年度に放課後キッズクラブに新しい利用区分を創設したことで、保護者から見ると、非常に利用がしやすくなったことは大変良かったことだと評価したい点です。</p> <p>一方で、学校の設備や備品、職員の数という質の部分の確保は、セットで考えていかななくてはならないと思います。今後検討する質の向上の取組の中では、その部分も併せて考えていけると良いと思います。</p>	

(青山副部会長) 実績の増加には、キッズクラブの制度変更の見直しが背景にあると思いますが、コロナ禍の状況がこれらの数字に影響を与えている可能性を踏まえておく必要はあるのではないかと考えます。その点はどのように見込んでいますか。

(事務局) コロナ禍においては感染拡大防止の観点から、遊び場利用であるわくわく【区分1】は、利用制限をしておりました。利用制限の目安は、神奈川県が定める新型コロナ感染症レベルに応じており、現在も利用制限を継続しております。そのため、本来なら、わくわく【区分1】の午後4時までの利用で足りる家庭については、利用制限が影響し、すくすく【区分2A】の午後5時までの利用にシフトしている可能性はあると思います。

しかしながら、今後の状況の見通しが立たない中では、やはり実績値として出ているものをそのまま表さざるを得ないところですので、計算上、このような形で更新させていただきました。

(青山委員) つまり、中間見直しは、新区分の創設に加えて、コロナ影響を受けて増えているということですね。「量の見込み」を考える上で、人数より少ない見込みにするよりは多いほうで、少なくともこれは下回らないだろうという考え方でやっているということであれば異論ありません。

(事務局) コロナ禍が払拭される場合には、わくわく【区分1】へシフトすることは想定されますので、お見込みのとおり上限値という形で設定しているものでございます。

(明石部会長) ほかの委員の方々、何かございますか。

なければこのような形で、「量の見込み」の中間見直し案について賛成いただけますか。賛成の方は挙手をお願いいたします。

(賛成者挙手)

(明石部会長) 全員賛成でございます。

続いて「確保方策」の中間見直しについて、事務局案で賛成の方は挙手をお願いいたします。

(賛成者挙手)

(明石部会長) 全員で賛成でございます。

「量の見込み」と「確保方策」について、事務局案を本部会として了承したということで、子ども・子育て会議の総会で報告することにいたしたいと思います。ありがとうございました。

<報告事項>

横浜市放課後児童健全育成事業の質の向上に向けた見直しの状況

(事務局) 資料6に基づき説明

(池田委員) コロナの影響で、キッズクラブのわくわく【区分1】は利用制限をかけていたと思いますが、現在は、わくわく【区分1】の利用制限は外れていますか。

(事務局) 現在、わくわく【区分1】は引続き利用制限をかけている状況ですが、7月に利用制限の解除の目安を神奈川県の新型コロナ感染症レベルに合わせて定め、こども青少年局から各クラブに対して発信をさせていただいたところです。レベルは5つありますが、現在の状況としてはレベル2の「警戒を強化すべきレベル」になります。レベル1の状況になったら、準備期間も経た上で利用制限なく受け入れるように各クラブ準備をしてくださいということを指示しています。

(池田委員) わかりました。今はちょうど9月ですが、公園で遊んでいると、虫よけをしても蚊が寄ってきて、手足がひどくたれている児童もいます。そのような状況をみると、子ども達の遊び場・居場所を確保するためにも、キッズクラブのわくわく【区分1】の存在は大事だと感じます。

(事務局) おっしゃるとおり、子どもを見守る場として、わくわく【区分1】の利用は大きいと感じます。一方、わくわく【区分1】の受入れは、文部科学省が所管の放課後子供教室事業として実施しておりますが、プレイパークなども放課後子供教室事業の位置づけで実施しています。プレイパークもそのような役割を果たす事業であると本市としては考えているところです。

なお、わくわく【区分1】の利用制限はしてはおりますが、全く利用を止めているという状況ではございません。ある程度の人数に限定する等、可能な限り利用できるよう工夫をして運営をしていただいているところです。

(宮崎委員) 今後の取組でアンケートの実施というのがありました。過去にも何回かアンケートを実施していただいていると思いますが、期間が短く、あまりたくさんの意見を吸い取ることができなかったというスタッフの声を聞きます。ぜひとも大勢の方の意見を吸い取っていただけるようアンケートを実施していただきたいです。また、各クラブに即した問題の改善ですとか、多くの声を聞いていただいて、ぜひアンケートの結果を生かしていただきたいと思います。

(事務局) おっしゃるとおり、アンケートは多くの方の意見を聞いて、よりそれを反映していくというのが目的です。ご意見を参考にさせていただきます。

(宮永委員) 放課後児童健全育成事業そのものではないかもしれませんが、障害者の居場所の一つで放課後等デイサービスという事業があります。放課後等デイサービスでは、地域のキッズクラブなどと交流して様々な体験や経験をすることや、互いに学び合うということも目的といたしますか、

過ごし方の一つとして挙げられています。しかしながら、そのような活動が具体的にはあまり進んでいないという状況を聞きます。なかなか難しいこととは思いますが、障害のある子ども地域社会で共に育つという部分では大切なことだと感じております。今後、放課後等デイサービスとの交流や連携についても検討していただけたらと思います。

(事務局) 子どもの育ちにとって、いろいろな交流をすとか、そういうところでの学びを得ることは大切なことだと認識しています。ご意見を参考にさせていただき検討してまいります。

(辺見委員) 人材育成の件で、以前事業者の方々のお話を聞く場がありましたが、その際に「母体が大きければ、運営に余裕があるので、人材育成ができる」というお話がありました。では、運営主体が小さい場合ではどうするかというと「それは大変な面があります」というお話だったと記憶しています。大変という意味には、要するに、育成する人材がないのか、もしくは人材はいたとしても、運営スタッフを研修に行かせると、スタッフ数が足らなくなるのか、その辺も考慮していただきながら人材育成はやっていただきたいと思っております。

もう1点は確認ですが、キッズクラブは、今年度から7・8月の利用料を500円ずつアップしましたが、これによって、利用者の増減はありましたか。

(事務局) 人材育成については、オンラインやオンデマンドを活用し、本市が研修コンテンツを用意するなどして、運営主体が小さい場合でもしっかり研修できるよう環境を整えていきたいと思っております。

なお、素案の段階ではありますが、中期計画(2022~2025)では、施策指標として「運営主体が研修を実施している割合」を100%にすることを目標に掲げ取組んでいく予定です。現状値は、約35%ですが、これは運営主体が小さいところほど、スタッフへの研修がなかなか難しいことを反映しているのではないかと感じています。事務局として、課題感を持って取組みたいと考えていますので、今後の方向性を検討し、説明できる段階になりましたら、ご意見もいただきながら、よりよい形に進めていければと思っています。

また、利用料金を500円割り増ししたことに伴う、利用人数の増減ですが、夏休み期間になってニーズは増えているという話は聞きますが、現時点において数値として把握ができておりません。また正確な数字が出たら共有させていただきます。

(事務局) その他質問等はありませんでしょうか。

(なし)

(事務局) 以上をもちまして、第5期第7回子ども・子育て会議放課後部会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

以上

資料	<p>[議案資料]</p> <p>資料5-1 横浜市子ども・子育て支援事業計画における地域子ども・子育て支援事業に関する「量の見込み」及び「確保方策」の中間見直しについて</p> <p>資料5-2 量の見込み・確保方策の算出シート</p> <p>[報告事項資料]</p> <p>資料6 横浜市放課後児童健全育成事業の質の向上に向けた見直しの状況資料</p> <p>[参考資料]</p> <p>資料1 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 委員名簿</p> <p>資料2 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 事務局名簿</p> <p>資料3 横浜市子ども・子育て会議条例</p> <p>資料4 横浜市子ども・子育て会議運営要綱</p>
特記事項	